

日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会
(第26期・第8回) 議事要旨

1. 日時 令和7年11月20日(木) 15:00~17:00
2. 会場 日本学術会議5-A会議室(1) およびオンライン(Zoom)
3. 出席委員 新井 充 小野 恭子 岸田 伸幸 関 実 古崎 新太郎
宮崎 恵子 山内 博 (50音順)
4. 議事要旨

定刻に小野委員長が議長となって開会を宣し、定足数の充足を確認して議事に入った。

1) 前回議事要旨の確認

小野委員長は前回議事要旨(資料1)の確認を求め、一同異議無く了承した。

2) 科学的助言等対応委員会「助言書」対応の件

小野委員長は、編纂中の今期意見表出文書に対して10月に交付された科学的助言等対応委員会「助言書」(資料2-1, 2-2)に基づき、関係機関等との意見調整が未了であることなどを理由に「報告」とするよう助言を受けたことを説明した。そして、委員長は「見解」と比べて実質的効力に何ら差異がないことから「報告」として表出することが適切と考える旨を述べ、内容面で大きな指摘は無かったが分かり易くすることを求めた助言の指摘を反映して編纂を進めていく方針を示し、出席委員から了承された。

ヒ素問題について関連する分科会等との連携を示唆されたことに関し審議したところ、自然ヒ素を対象とする一般的環境問題と化学兵器由来の多様なヒ素化合物問題とは上手く話がかみ合わないことが予想されるため、今期意見表出では見送る方向で承認された。

3) 今期意見表出文書の編纂について

小野委員長は原稿案執筆の進行状況を確認し、出席委員に質疑と意見を求めた。
山内委員) 現原稿案に本文で記載したヒ素無毒化技術の説明資料を付録に収録しているが、これと別に遺棄化学兵器廃棄処理現場で実作業に当たっている企業の作業者の長期的健康管理問題についてもう1点付録資料を追加したい。ヒ素曝露による健康被害は約30年後に発症する特性があり、企業を退職した後々までフォローする体制が必要な旨を述べるもの。
小野委員長) 付録に対応する記述を数行、本文の適切な箇所に追加し、付録に対応させる。
本報告の来年3月表出を目指すことで辻分科会委員長と合意したが、早めに出すのは差し

支えないので、付録㍻切を12/5に、そして全委員による原稿案閲読の㍻切を12/8とし、それらを三役で原稿案として取りまとめ、1/6分科会に間に合わせたい。

宮崎委員) 分科会役員に冬休み中に目を通して貰うため12月下旬にはまとめて欲しい。

関委員) 原稿案の中で環境汚染に関する記述に十分留意して欲しい。ハルバ嶺などの日本側の処理施設等を撤収するに際し、敷地や埋設跡等に汚染を残さないことは既定事項だが、同処理場自体は2027年の埋設物処理完了後も当面存続させ周辺各地から遺棄化学兵器を輸送して処理することが決まったので、尚早な記述をすることはない。

岸田幹事) 当小委員会は立上げ経緯から汚染を浄化する環境技術も課題として捉えてきた。状況が変わり優先順位が変わってきたので慎重に推敲する。

小野委員長) その他の点にも全委員の意見を反映したいので、本日配布した原稿案ファイルに書き込む、あるいは修正方向のコメントだけでも構わないので追記して、全委員同報でお送り頂きたい。2週間程度で三役が原稿をとりまとめ冬休み中に査読へ入れるよう進めたい。宜しくお願いします。

4) その他

委員長は、次回の小委員会を、査読結果の目途がつく1月末～2月初頃に開催したい旨を述べ、幹事に追って日程調整するよう指示した。

議長は、全ての議事が終了した旨を述べ、閉会を宣した。

以上